オオクワガタ

Dorcus hopei binodulosus Waterhouse

コウチュウ目クワガタムシ科

石川県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類
国カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類

選定理由
現在の「放虫問題」の無かった、35年前に採集された標本の存在により、石川県にも本種が分布していたことが確認されたが、その他には確実に石川県産と思われる個体の採集記録がない。

形　　態
オスは頭部や胸部が幅広く、大アゴは強大で、大型の個体では中央より前方に斜め前向きの大きな内歯を持ち、先端部分には後方に向く小さな内歯を持つ。体長は最大で約80㎜に達する。メスは全体的に光沢が強く、胸部は丸みが強い。

国内分布
北海道（南部）、本州、佐渡島、四国、九州、対馬に分布するが個体数はとても少ない。

県内分布
現在、本種の生息地は見つかっていない。しかし、35年前に金沢市で採集された標本が現存し、県内に分布していたことを示す唯一の資料となっている。

生　　態
成虫は６月から９月にかけて出現する。日中は樹洞に入ってほとんど姿を見せず、もっぱら夜に活動する。走光性があり、灯火に飛来することもある。卵から成虫になるまでに約２年かかる。成虫の寿命は長く、３年ほど生きることもある。

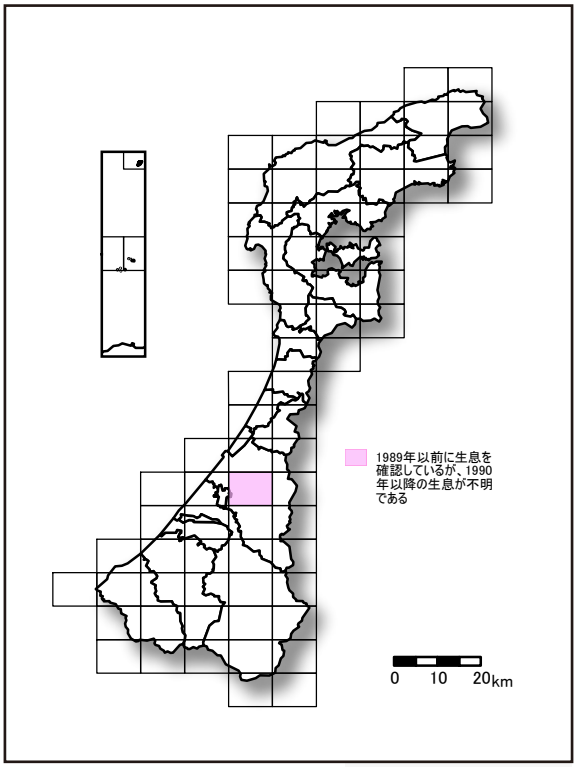
生息地の条件
樹液が出て、樹洞があるようなクヌギなどの大木が存在する、自然の豊かな森林であること。

生存の危機
本種はクワガタムシ類の中でも人気が高く、いわゆる乱獲（採集圧）が本種にとって最大の脅威である。さらに、もともと分布していない地域への放虫行為も大きな問題であり、近年では、放虫個体と思われる採集事例が県内でも数多く聞かれるようになった。その他、生息環境である森林の伐採や開発など、本種の生存を脅かす事柄は枚挙にいとまがないのが現状である。（A）

特記事項
石川県唯一の文献記録として、山本（2000）による金沢市森本での採集記録があるが、森本周辺では悪質な放虫行為が頻繁に行われていたことから、この記録は石川県産の個体であるとは断言できない。

参考文献
山本雅一 2000. 石川県におけるオオクワガタの採集記録. 月刊むし, (350) : 119.

標本提供者：森幸彦



県内の分布